



# 新高退通信

## No.121

HP : shin-koutai.jimdo.com

mail : shin.koutai@gmail.com

# 新潟 高教組

発行所/新潟県高等学校教職員組合/新潟市中央区川岸町2-11 / TEL (265)4151 / FAX (231)1036 / 1部10円 (購読料は組合費に包含)

発行人 小堺 吉清

2015年12月1日  
号外

新潟県高等学校  
退職者の会

事務局  
〒951-8133  
新潟市中央区川岸町2-11-4  
(高校会館内)

退職者の会専用電話  
025-265-1110



千鳥ヶ淵戦没者墓苑東門付近 撮影 事務局・内山  
(中央が案内をしてくれた内田雅敏弁護士)

**2015生涯学習委員会企画**  
**「靖国神社を自分の目で見る旅と翌日は班別研修で巡る東京」**

標記旅行が10月21日、22日の2日間にわたって実施された。参加者数25人、秋晴れの穏やかな天候の中、高速道路も含めてほとんど渋滞がなく、企画の趣旨が参加者にも好感を持って迎えられ、参加者納得の研修旅行となった。

上信観光のバスで新潟駅南口を7時に出発、途中栄PA、長岡駅西口で6人が乗車し東京に向かう。トイレ休憩、昼食タイムも確保しながら、信じられないほどのスムーズな道路状況の中、靖国神社大鳥居に到着する。現地合流の3人と合わせて25人の顔が揃う。この旅行は弁護士の内田雅敏さんの講演を聞いたことがきっかけ。内田弁護士からは靖国神社、及び遊就館のガイドをしていた。内田弁護士とは「千鳥ヶ淵戦没者墓苑」で待ち合わせ、この墓苑の見学と簡単な説明を受けた後、今日の主目的である靖国神社・遊就館に移動した。

まず、人が行き来するエリアと鍵がかけられた柵で分断され、国籍や人種を超えた戦禍犠牲者の霊

を祀るとされる「鎮霊社」の見学をする。安倍首相は2014年12月、全ての戦没者に対して参拝したと言いつつ、靖国神社に参拝しない全ての戦場に倒れた人々の慰霊のために建てられた鎮霊社で「不戦の誓いをした」と記者会見をした。

遊就館に移動する。入館料を支払い、エスカレーターで2階に上がると、今入ってきたところに零戦、泰麺鉄道を走ったSLが鎮座していたことに驚く。ここからは2階に10展示室、さらに1階に降りて9展示室と大展示室を順次、内田弁護士の説明を聞きながら回る。

【展示室1】本居宣長の和歌「敷島の・大和心を・人間はば・

朝日に匂ふ・山さくら花」が本人や地元  
の意に反して、特攻  
隊鼓舞のために利用  
された。【展示室  
11】アメリカに抗議  
を受けて「ルーズベ  
ルトの大戦略」との  
タイトルが、「ルー  
ズベルト外交とアメ  
リカの対戦参加」と  
修正された。【展示



内田弁護士の講話

が行われており、  
疑いの目や真実を  
見極めようとの強  
い意識を持つて見  
ないと、整理され  
見やすく揭示され  
た文章と写真によ  
り、「靖国神社の誘  
導」に合うに違  
ないことが分かっ  
た。

から3ヶ月後に捕虜1人を除く9  
人を「真珠湾の9軍神」として利  
用した。【展示室13】戦争終結後の  
8・15夕刻、私兵特攻に部下22人  
を道連れにした第5航空艦隊司令  
長官宇垣纏までもが合祀されてい  
ることが書かれている。【展示室  
15】「第2次世界大戦後の各国独  
立」と題したアジア、アフリカの  
大きな地図が掲げられているが、  
日本の植民地であった台湾、韓  
国、北朝鮮には着色がなく指導者  
の写真もない。また、中国の「5・  
4運動」についての記述はあるが  
ソウル「3・1独立運動」に関す  
る記述はない。

内田弁護士は靖国神社の存在意  
義を、「死者を追悼するというよ  
り、国に命をささげた英霊を顕彰  
するということに重点が置かれ  
た」と話す。  
靖国神社のパンフレットには  
「日本の独立と日本を取り巻くア  
ジアの平和を守っていくために  
は、悲しいことですが外国との戦  
いも何度か起こったのです。明治  
時代には『日清戦争』、『日露戦  
争』、大正時代には『第一次世界  
大戦』、昭和になつては『満州事  
変』、『支那事変』そして『大東亜  
戦争(第二次世界大戦)』が起こり  
ました。(中略)形ばかりの裁判に  
よつて戦争犯罪人という、ぬれぎ  
ぬを着せられ、むざんにも生命を  
たたれた1068人の方々、靖国

神社ではこれらの方々を『昭和殉  
難者』とお呼びしていますが、す  
べて神様としてお祀りされていま  
す」と、あきれたことに「戦争は  
自然に起こり、A級戦犯は殉難者  
で神様」だと書かれている。  
この研修で得たことは、戦争法  
廃止に向けた行動と軌を一にしな  
がら多くの人に伝えて行きたいと  
考える。2日目の班別行動につ  
いては、以下に各班から報告をし  
てもらった。(事務局 内山正知)

### 「上野周辺班」

ホテルの前から8時半発上野行  
きの無料シャトルバスに乗る。西  
郷の銅像の前で今日の行動の確認  
をする。曾我夫妻、小川グループ  
と男性4人(木村、内田、市川、  
國分)の2班に分かれる。曾我夫  
妻と小川は、東京都美術館のモネ  
展と東京国立科学博物館を時間を



西郷隆盛銅像前で

かけて観る。男性4人は、旧岩崎  
邸を見学。英国人コンドルが明治  
29年に完成した物で重要文化財に  
指定されている。木造2階建ての  
洋館は、本格的なヨーロッパ式邸  
宅で見事であった。次に下町風俗  
資料館で、少年時代にタイムスリ  
ップしたような世界が待ち受けて  
いた。アメ横に行つてみる。ここ  
はいつ来ても活気があり、口上を  
聞いていると寅さんが現れてくる  
ような錯覚に襲われる。ちょうど  
昼時になり、テレビ情報で得たB  
1グランプリ食堂へ行くことにし  
た。ようやく見つけたがオープン  
は23日からとわかりがつくりす  
る。新潟からわざわざ上京してき  
たというと、入場させてくれた上  
全て無料にしてくれた。上野公園  
まで再び歩き、時間があったの  
で、不忍池や西洋美術館の入り口  
にあるロダンの幾つかの彫刻を眺  
めていたら、集合時間の2時とな  
った。(新潟支部 國分眞三)

「スカイダック班」  
昨夜来の美酒が、心地よく残る  
なか、爽やかな朝をむかえ、窓を  
開けたら、目の前にスカイツリー  
が飛び込んできた。早々に朝食を  
取り、さあ！出発だ。東横イン  
(浅草千束つくばエクスプレス)



発車前のスカイダックと

私達はスカイダックコース、7人。流しのタクシー2台に分乗しスカイツリー下の発着場に到着。出発時間まで十分に余裕があったので、ダックをバックに記念写真を1枚。スカイツリーを2〜3枚。まもなく、搭乗時間になりスカイツリーを出発。早速、若い(美人)、アテンダーさんのベースにはまり、いやな気分ひとつなく、躊躇もせず、地元(浅草?)の人々に手を振り、「アヒルでグア〜グア〜」(笛)を鳴らし、ドライバーさん(キャプテン↑水上にでた場合)に気合いを入れたり、ダック内は、すぐにも盛り上がりを見せた。

予定のコース「とうきょうスカイツリー駅前〜亀戸〜東大島」旧

中川・川の駅」(水上運航・トイレ休憩)〜亀戸〜とうきょうスカイツリー駅前」を無事巡り充分に堪能させてもらった。

なかでも「スプラッシュポイント」での瞬間、胸の高なり、全員で歓声！フロントガラス前面に水しぶきがあがり、ウォーターシュートに乗っているようだ。なにか、遠い昔に味わったような懐かしい気持ちがあみがあった。

予定のコースを巡り昼食はスカイツリー内の「そらまち」で「上うなぎ」をいただき、胃袋も元気を回復し、班長等のすばやい判断と適切な指示の元、迷うことなく集合場所の「不忍池」に向かう。到着すると、それぞれが時間まで上野駅周辺の探索を楽しんだ。

(三条・加茂支部 河野正博)

### 「柴又班」

やはり「寅さん」は人気がある。宿泊ホテルから最も遠い柴又コースに参加者は最多の10人。

浅草のホテルを3コースの中で最も早い8時に出発した。折角なので浅草寺の境内を本堂・五重塔、仲見世、雷門と斜めに通って出発駅の都営浅草線の浅草駅へ。そこから京成線乗り継ぎ、映画「男はつらいよ」の柴又にはぼ9



柴又駅前寅さん像前で

時に到着した。

平日の9時なので、駅前の寅さん像の広場に観光客はほとんど見えず、小学2年生一行の案内をするというボランティアの方5・6人が打ち合わせをしていた。その方々に約半日の見学を相談すると親切にアドバイスをしてくれたし、その中の女性の方に寅さん像と駅舎を背景にした集合写真を撮ってもらった。

ボランティアの方の話では、定番のコースの山本亭が休館中で、平日でもあるので、矢切の渡しを往復したらとのこと。

約200m余りの帝釈天参道は、帰りの時間調整に使うこととしてまず帝釈天題経寺へ、中心舞台だ、銘々がゆつくりと拝観した。そして、あの鐘楼の脇を抜けて江戸川の土手に。ここも「寅さん」の舞台だ。矢切りの渡しは、11〜12月運航の告げが手書きされているだけで、棧橋は古びた鎖がぐるぐる巻きになっていて、運航の気配はまったくない。あきらめて河川敷の公園を横切って土手へ上がり振り返ると、誰かが「アラ、渡し船が」と、確かに舟が川の中ほどをこちら側の渡し場の方向に。土手の広場からエレベーターで寅さん記念館と山田洋次ミュージアムへ、両館とも意外と狭いが、映画「男はつらいよ」と山田洋次の映画の世界に浸りきった。

なんとなく「男はつらいよ」に出てきてもおかしくない10人、参道の食堂で「寅さん」・柴又を楽しんだ。集合場所の上野へは高砂乗換で京成上野駅へ。しかし、高砂では線路はここで終わり、京成本線に接続していない。最初の頃の「男はつらいよ」では京成上野行や押上行もある。ハテ、どういことなのかな・・・

2015 地公3単産学習会

## 「戦後史と平和を考へる」 講師・白井聡

## 敗戦の否認・無責任体系への異議申し立てを (講演要旨)



『永続敗戦論』(太田出版)の執筆動機は、鳩山政権の普天間基

地移設を巡っての「敗北」の誤魔化しと福島第一原発事故に凝縮して見られた丸山真男が指摘した「無責任の体系」の再臨、身近な例で言えば、8月15日の「敗戦の日」を「終戦の日」に置換して記憶していることへの根本的な疑義にありました。

安倍首相はアメリカ議会で戦争法案の国会での議決を約束しましたが、これは世界にも類を見ない「特殊な」対米従属と東アジアでの孤立(この2つは循環構造にあります)を世界に公言したもので、「異常」なことです。

「戦後の核心」は「敗戦の否認(日本は戦争に負けていない)から責任も、反省も必要はない)にあります。「戦後レジームからの脱却」を掲げる安倍政権の内実には、アベノミクス、積極的平和主義、原発推進路線、歴史修正主義、特定秘密保護法、解釈改憲、新安保法、武器輸出禁止3原則の廃止等が見られますが、これは「脱却」ではなく、「敗戦の否認」の死守、深化に他なりません。

「敗戦の否認」は東西冷戦構造の中で生まれ、岸信介、正力松太郎等の旧勢力の再登板によって温存されてきましたが、3・11の福島第一原発事故で「平和、繁栄」の時代としての「戦後」は終わり、「戦争と衰退」の時代へと向かっていこうとしています。

いま、国内では「永続敗戦」レジームの変革か、死守かを求める根本的対立の構図が出現しています。「日本の縮図」となっている沖縄では、辺野古新基地建設阻止の広範なたたかいが展開されていますが、これは、本土の人たちが気がつかなかったことに沖縄の人たちが気がついていたの、「敗戦の否認」への異議申し立てではないかと思えます。

(事務局 木村昭雄)

2015 日退教組活動交流集会

## 「辺野古新基地問題から民主主義・人権を問う」

## 沖縄高退教 安次嶺美代子さん

(レポート主旨)

安保関連法が9月19日成立した。敗戦後、歴代政権が禁じてきた集団的自衛権の行使が可能となり、海外での軍事活動に参加することになる。東日本大震災・原発事故から4年半も経つが、福島ではいまだ仮設住宅暮らしが2万4千人余もいるという。そんな中、九州電力川内原発が再稼働した。

この国の無責任体制は底無しである。安倍政権のこうした民主主義の根幹を揺るがす民意無視は、辺野古新基地問題でも顕著である。

2004年、沖縄国際大学に米軍ヘリが墜落、抗議集会が開かれ3万人が集結する。2010年1月、名護市長選で稲嶺進氏が「辺野古に新しい基地は造らせない」という公約を掲げ当選する。2010年11月には県知事選が行われ、県外移設を公約に掲げた仲井真氏が再選された。2012年、安倍政権は普天間飛行場へのオスプレイを強行配備した。2014年1月19日には、名護市長選があ

り「新基地建設反対」を貫く稲嶺進氏が再選される。2014年11月には県知事選があり、「辺野古への新基地は絶対造らせない」と明言した翁長雄志氏が当選する。12月14日の衆議院選挙沖縄選挙区では「県内移設反対」を掲げて選挙戦に臨んだ4人全員が当選。これだけの民意を無視する安倍政治はもはやファッショと言うしかない。

アジア太平洋戦争末期には、沖縄は国体維持のために日本本土の「捨て石」にされた。国内で唯一、住民を巻き込んだ地上戦が展開された。やがて敗戦、収容所から戻った住民は、住む家もなく田畑は米軍基地に接収され多くの県民が路頭に迷った。敗戦後、日本の独立と引き換えに米国の「植民地」にされた沖縄では、米軍基地から派生する数多の事件・事故に人権が蹂躪され続けた。

これ以上、被害者にも加害者にもならないために、声を上げ続けよう。

(事務局 石野公久)

福祉厚生委員会企画第23回福祉学習講座

認知症を学ぼう  
「私とまわりの人のために」

9月30日、高校会館3階会議室において、60人が参加し認知症をテーマに講演会が開催されました。講師は公益社団法人（認知症の人と家族の会 新潟県支部副代表）等々力 努さん。

(以下に講演要旨・福祉厚生委員 石黒 猛)

私は「認知症の人と家族の会」というところで18年活動しています。「家族の会」は1980年に結成されたボランティア団体で、新潟県支部は1996年に結成。介護家族や本人だけでなく、専門医、介護の専門職、認知症に関心のある方を包含する組織。

主な活動は、「つどい」の開催。県内10ヶ所で行っている。これが活動の大きな柱。毎月の会報発行、電話での悩み相談なども行っている。一番大事なのは、認知症の偏見をなくし、正しい理解を進めるための啓発活動。認知症を当たり前前に公表できる社会をめざしている。

徘徊は、家族だけでは防げず、地域全体で家族を支えていくために公表できる社会や、安心して暮らせる社会を作ることをめざして

活動を続けているところ。

認知症は誰でもなる可能性がある。日本では認知症高齢者が462万人、65歳以上では7人に1人が認知症と言われる。さらに軽度認知症と言われる認知症予備軍が400万人。2025年問題と言われ、当事者が700万人になると言われている。

年を取ると誰でも認知症になると誤解している人もいる。加齢により物忘れが多くなり、記憶も落ちるが、それは脳の自然な老化現象で、医学的に言う「認知症」とは異なる。加齢による物忘れと認知症の記憶障害は異なり、何を食べたか思い出せないのは物忘れだが、認知症は食べたこと自体を思い出せない。

一番多いアルツハイマー型認知症は、脳の中の細胞が萎縮して起

こるもの。レビー型認知症は幻視やパーキンソン病がおこる。脳内の血管が詰まって血管型認知症がおこるものもある。

認知症も他の病気と同じように、早期診断、早期治療が大事。認知症を治す特效薬はないが、薬で進行を遅らせることができる。正常圧水頭症、脳腫瘍、慢性硬膜下血腫などと症状が似ていて間違われやすいが、これらは適切な処置で劇的に改善される場合もある。



熱心に学習する会員と講師の等々力務さん

る。症状が軽いうちに、後見人をきめておく等の準備や手配をしておけば、認知症であっても自分らしい生き方を全うすることもできる。

高齢化に伴って認知症の人は増加するが、病気になってからの対策が多い。デイケア、ショートステイなどは認知症になった方、またその家族への対策。認知症にならないためには、趣味をしたり、外に出て行って頭を使うのがいい。2日に1回の有酸素運動も効果的、青魚のサプリなどを一緒に飲むということも。緑黄色野菜、それと睡眠が非常にいいと言われる。

介護家族の4人に1人が軽度の方を365日、24時間介護することのストレス、介護にはゴールが決められていない、愛する家族が衰え、苦しむ姿を見ることが葛藤もある。かかりつけの医師が正しい知識を持って、疑いがあるならしっかり認知症の専門医につないでもらいたい。

徘徊はみんなで見ていかなければならない。みんなで見守れるネットワークが必要なのではないか。徘徊で亡くなる方が1割いる

が、届け出が遅くなるほど亡くなっている。

若年認知症が増えている。高齢者の認知症とは違った苦悩がある。これからというときに発症、高齢者の介護サービスにはなじめない、経済的な負担も大きいなど。根本的治療薬の完成を強く願う。

「つどい」は、情報交換の場として有効。経験や助言を聞いて、心が楽になり、当事者にやさしくできる。介護の疲労やストレスを苦にした虐待や無理心中を起こしそうな人も、対等の立場で話が聞ける人が要る。介護を苦にして無理心中を起こされた家族の半数は介護保険のサービスを利用していい。心のケアという点で「つどい」にできてくれればいいと思う。

在宅介護のポイントとしては、「がんばって」ではなく「がんばりすぎない介護で」と言っている。介護サービスは、介護家族が豊かな人生を送るための応援団の意味もある。十分利用してほしい。健常者の夫婦よりも、どちらかが介護が必要になった家族の方が絆は強くなるように感じる。介護が主になる生活では余裕がなく

なる。一人暮らしの男性は、2週間に1回しか会話がなない人が17%いて精神的に追い詰められたりして、認知症になるリスクも高まるので、一人暮らしの男性を外に出す方策も必要。

虐待を行う側の7割は男性というデータがある。交流が苦手、他人に相談せず、プライドが高く、他人に弱みを見せたくないなどの原因が考えられる。

介護は家事の延長で、食事や洗濯ということもある。核家族化により老老介護が増え、地域におけるコミュニケーションの喪失もある。個人情報保護への過剰意識も影響している。

男性虐待を防ぐには、男性が得意とする技能を活かす環境を提供する。プライドを満たす依頼や感謝の仕方を考える。男性向けの料理教室、介護教室などのイベントの開催なども。家族の会に参加する、介護保険サービスを利用する、趣味やサークル活動に積極的に参加するなどが有効だが、肝心なのは、適度に力を抜いた「良い加減」の介護をするという意識。

優しさをシャワーのように注ぐ接し方が大事。良く話を聞く。積

極的に笑顔で話しかける。一緒に笑う。よく褒める。優しく触れる。自分が大切に思われていることを相手に伝わるように接する。認知症のケアに必要なスリーA、「明るく」、「頭を使って」、「あきらめない」。これが大事な要素。

認知症の人の思いも知って、地域全体で支えることが必要。そのため、できる範囲でよい環境作りや関わり方を考えることが大切になる。認知症の人や家族に対して、さりげなく、サポートする。ケアでなく、あくまで普通の人として対等な立場でサポート。足が不自由な方の杖、スロープのように、認知症の人に対しては、心のスロープ、心の杖になってやれたら。私達にできること、3つの「ない」。「驚かせない」「急がせない」「自尊心を傷つけない」

自分が認知症の人の立場だったらどのように関わってほしいかを考える。認知症を正しく理解し、偏見持たず、認知症の人や家族に押し温かい目で見守り、認知症の人と家族が安心して暮らせる社会の実現へむけて、ご協力をおねがいしたい。

アンケートによる、「講演の感想」をまとめると、『経験に基づいた具体的な話は、分かりやすく参考になった』ということ。また、替え歌や「つどい」に興味を示す者も複数いた。

介護経験がある、あるいは介護中の人は『当初はびっくり、おろおろ、そのうち怒鳴りつけたり』、『新潟まで通いながら、妹と協力し、病院の助けを受けて介護した』、『話を聞いて、義母の介護について反省した』、『最後は結局老々夫婦2人で解決するしかない』など。

その他、『国の福祉政策が行き当たりばったりや、自己責任とでたらめ』、『子供たちに迷惑をかけないように、専門施設でケアをしてもらいたい』などの記載があった。取り上げて欲しい課題は、『一人暮らしになったときの対応』、『日常体操』、『高齢者の生活設計』、『福祉施設見学』など。

(内山)

教え子を再び戦場に送るな!

# 「戦争法」の廃止に向けて

事務局 内山正知

戦争法廃案の取り組みには、これまで新高退においても、総会特別決議(代議員58人)に基づき、「総がかり運動」等に延べ130人以上が参加してきた。

しかし戦争法は、「安保法制」として、9月17日参議院で、前日行われた地方公聴会の報告手続きすらすつ飛ばし、議場騒然・聴取不能の中、委員会採決が行われ賛成多数で可決、さらに翌々日の19日に本会議で成立した事になった。

この戦争法は憲法違反の法律であり、立憲主義に反し、平和主義に反し、民主主義を踏みにじったものでそもそも法律たり得ない。私たちはこれから何をなすべきかについて、11月2日、県民会館小ホールで、『戦争法廃止!安倍政権退陣!総がかり行動県民集会』が開催され、金子修弁護士から、「安保法制は成立した、これからどうなる

の?・・・」と題して講演が行われたので、それを踏まえて提起する。

平和主義を捨てたことで、日本国民が外国に出かけ、戦闘員として外国人を殺し殺され、あるいは旅行者として殺される可能性が極めて高くなった。

自衛隊員の行動範囲が周辺地域から世界中どこへでも、非戦闘地域から戦闘現場の直前まで拡大し、兵站も救援物資のみから、戦闘現場に軍事物資(核を含む)までと限度なく拡大する。日本が武力攻撃された場合の反撃のみから集団的自衛権行使で他国(主にア

メリカ)が武力攻撃された場合に一緒に戦争行動をすることになる。

各種の世論調査により、5割以上の国民が成立に反対し、7割の国民が慎重な国会審理を求め、8割の国民が説明不足と考えていたのに、自公は数の力で無修正のまま強行採決した。さらに、9割以上の憲法学者や全国の弁護士会

が「憲法違反」と主張したことに對しては「学者や弁護士に何が分かるか」と吐き捨てた。それでは、もう諦めなければならぬのか。そんなことはない。戦争法に反対する取り組みには、従来の運動と異なり若者(SEALDs)、若い母親の会、学者・弁護士、組織化されていない個人など、様々な人たちが自らの意思で加わっている。安倍の「どうせ諦める。すぐに忘れる。」という目論見を突破しなければならぬ。

## ◆新高退のぼり旗◆

日教組から新高教を通して、標記ののぼり旗制作を告げられたのが、8月中頃、すぐに3本が届けられた。「戦争法反対」の集会・デモ行進等で、退職者の会の活動をアピールするのに絶大な効果を発揮した。

当初、提示されたデザインでは赤一色の地色だったが、集合時に分かりやすく、他組織の組合旗と区別のため、下部斜めに会旗と同色の紫を入れた。



具体的には、①「戦争法廃止!総がかり行動in新潟」などの提起する運動の情報を集める。②行動に行けるときに、行けるところにこまめに参加し、自分の活動を積み上げる。③行動に自信が出てきたら、スタンディング行動や他の運動(辺野古移設反対、原発再稼働阻止、TPP反対など)にも参加する。④「戦争法の廃止を求める統一署名」の署名集めを積極的に行う。⑤来夏参院選で自公の議席に勝る勢力を出現させ、戦争法を廃止するという流れだ。



8.30総がかり行動

### 新高退に入会して

新発田村上支部 中山比呂子(14)



この3月末をもって、教職生活に一つの区切りをつけました。しかしながら、再雇用ではありませんが、非常勤講師として2ヶ校かけ持ちで週13時間を担当し、完全にリタイアはしていませんので、日常似たような生活が続いています。このように仕事は続けていますが、高教組組合員は卒業いたしました。

高教組には在職中大変お世話になりました。かけ出しの教員の頃には、教育の民主化、職場の民主化に向けて数々のことを高教組を通じて教えて頂いたと感謝しています。

旧高校会館のステージのそでに掲示されていた「教え子を再び戦場に送るな」と言うスローガンを初めて見た時の鮮烈な印象を今も思い出します。(今はこのスローガンは掲示されていません。)

私が在職した32年間で、組合の最も勢いのあった絶頂期と分裂、そして組織率の低下、県当局の過度なる組合への介入等現在に至るまでの盛衰を経験させてもらいま

した。一つの感慨があるとともに屈辱的な思いも感じています。

今の現場はトップダウンが横行し、民主的な雰囲気がいちだんと失われてしまっています。このままでもいいのだろうか、後戻りできない方向に動いていると日々感じていました。今年に入ってから安倍内閣が推し進める安全保障関連法案成立への動きと、憲法「改正」の目論見が要注意です。成立に対してはなんとしても阻止しなければなりません。

しかし個人の思い、力だけではやれることに限界があります。こういう時こそ組織、組合の存在が必要になると感じます。

私は一番身近な職場の中の組合としての高教組の必要性を痛感し組合員を続けてきました。今後は



何らかの形でお手伝いができればと思っています。(本原稿は6月に寄稿してもらったものです)

### 退職をして半年

新潟支部 高橋清貴(14)



今年三月末に新発田南高校を最後に定年退職しました、高橋と言います。その前は、新潟地区の学校を2校勤務し、あわせて3校の学校の勤務をしましたが、工業科の担当であったことかと思いますが、少ない学校数また通勤しやすい学校と、恵まれていたと思います。

さて、新発田南高校には、10年間勤務しました。その間に、組合本部の仕事にも関わることができ、何かと勉強させて頂きました。

現在は、新潟市内に住んでおります。退職をして半年が過ぎ、少し落ち着いてきたので、短時間の仕事でもあればと考えているところです。

私が退職者の会に加入するにあたり、現職の時から多少の関わりもありましたので、早々に加入をさせて頂きました。まだ、活動に

ほとんど参加しておりませんが、今後考えていきたいと思っています。

これから何かとお世話になることが、多々あるかと思いますが、よろしくお願致します。

### 近況

新潟支部 志苦純子(14)



退職し7ヶ月がたった。仕事を辞めたことをのんびりとやろうと漠然と考えていたが、前から関心のあったいくつかの習い事を始めた。茶道・ピアノ・筋トレ・英会話など。考えていた計画は実現しているものもあれば、教室に入会したものの休みがちなものもある。でも余り多く始めて忙しくなりすぎ

ては本末転倒である。楽しいと思える事を続けていければいいと思う。

もう一つ退職後にしようと思っていたことが、空き家になっている親の家を片付け、老後に向けて住みやすくリフォームすることである。4月以降展示場の見学・業者選定とすすめて、夏の暑い中を毎日片付けに通った。衣服から家財



道具までとっておいても仕方のないものばかりで、よくもこれだけのゴミの中で暮らしてきたと思うほど捨てた。各種買い取り業者にも連日通った。貴重・高価だと思っていたような書籍が二束三文の値をつけられても捨てるよりはましと大量に引き取ってもらった。だが、この作業は心身ともに消耗した。先に延ばしたらもう体力的にできなかったかもしれない。

また、今後はものを増やさないと生活をしようと、しみじみ思った。わが家には、現在出産で帰省した娘も孫と共に滞在中である。実家が完成したら皆で引っ越し予定である。第二の人生も当面忙しさが続きそうである。

# 囲碁大会結果

## 第23回新高退囲碁大会

Aクラスは笠原さんが優勝

9月3日、高校会館で恒例の新高退囲碁大会が開催された。

はじめに係より競技方法の説明があり、その後、対局がスタートした。大会は、選手をAクラス(5段以上)8名、Bクラス(4段以下)8名に分け、9月10日の

県大会に出場する選手を選抜するもの。その結果、次の各氏が出場権を得た。(敬称略)

クラス	氏名	支部
A 1位	笠原 均	新津
2位	知野 敬慈	三条加茂
3位	野口 文人	長岡
4位	飯塚 良彦	新潟

クラス	氏名	支部
B 1位	藤巻 繁雄	魚沼
2位	荒井 一郎	上越
3位	市橋 昇	佐渡
4位	有坂 勝	三条加茂

## 第23回県退教囲碁大会

Aクラスは飯塚さんが優勝し、北陸ブロック大会へ

9月10日には、新教組会館で恒例の県退教囲碁大会(北陸ブロック大会予選会)が開催された。

新退教の事情で、今回の参加者

は新退教6名、新高退10名となった。AとBの2クラス制で行われ、北陸大会には各クラスからそれぞれ新退教1名、新高退1名を決定した。

クラス	氏名	支部
Aクラス	飯塚 良彦	新潟
Bクラス	佐藤 暢夫	新潟

(出場者不足のため出場)

なお、Cクラスには有坂勝さん(三条・加茂支部)を推薦して大

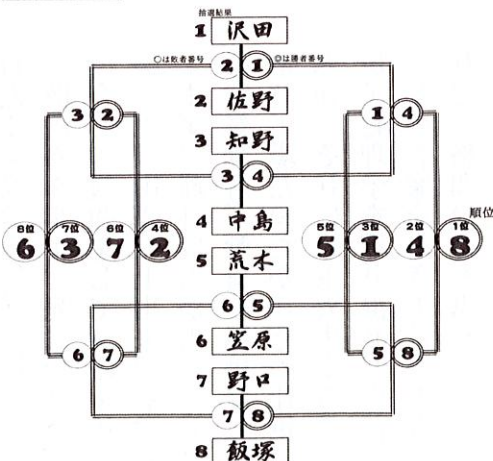
この囲碁大会は、「スイス式トーナメント」方式で実施されています。通常の勝ち抜きトーナメント戦は、1回負けたら終わり、最初の方で負けてしまうとそれ以降はする事が無くなってしまう。総当たりリーグ戦では全ての参加者が最後までゲームをするために時間がかかりすぎる。これら2つのトーナメント方式のいい所を組み合わせたのが「スイス式トーナメント」です。

### 第23回 新潟県退職教職員囲碁大会

スイス式トーナメント方式による組合せ表

2015.9.11(金)

グループ(A)・B



会を終了した。



表彰される飯塚さん

## 北陸ブロック囲碁大会

10月1日、金沢市の石川県教育会館で大会が行われたが、惜しくも入賞にはいたらず。

## ●戦争をした国の記憶(リレートーク)

## 「私の学徒動員②」

わたしの運命を変える事態が・

飯塚良彦(89)(新潟支部)



この頃、わたしの運命を変える事態が起きた。それは私たちの現場に東大理学部が研究のために配属され、私たちを掴まえて原子物理学の講義をしてくれた。彼らとしては、既に修得した

学識の確認と新しいビジョンの模索のためだが、彼ら同士で論じ合いながら私にはできるだけ判り易く、まったく知らなかった境地に私は酔った。中でも、マッチ一箱の大きさでハワイ全島を吹き飛ばす威力のある原子爆弾がいま日本に出来つつある。その原理はこれこれ、こうだと詳しく説明された時、戦局は既に絶望的だった。勝利へ一抹の望みを繋いだ。

8月7日朝、出勤の途上、高田駅頭の朝刊の見出しに「広島に新型爆弾・」をチラリと見て、アッこれは原子爆弾だ！、アメリカに先を越された！と絶句し、初めてこの戦争は負けたと思った。敗戦の玉音放送はラジオの雑音で全然聞き取れなかったが、内容は判

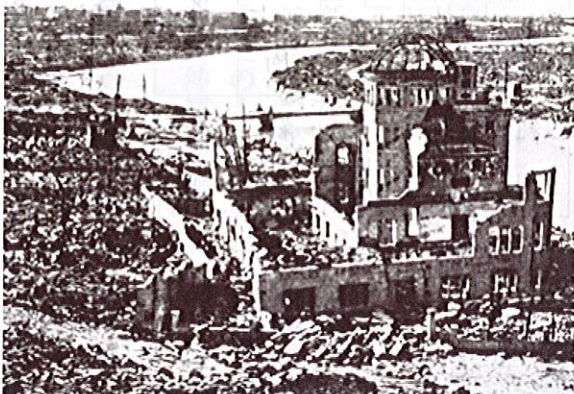
り切っていた。

荷物をまとめて帰寮すると、級友たちは皆ヤケになって、工場から持ち出したエチルアルコールを呑み、急性アルコール中毒でぶっ倒れていた。メチルでなくて良かった。

国民総戦鬼状態、各地で餓死者、強盗、殺人、放火・・と殺伐な世相の中で、サテ俺はこれからどうするの？、と考えたが、どうしようもない。大部分の同級生たちと同調して、取り敢えず上級学校を目指すことにした。

が、難問。金が無いのは今更始まったことじゃないが、学力不足が決定的だ。

上級学校を目指す殆どの者は、陸士や海兵で軍の幹部養成教育を受



原爆投下直後のヒロシマ

け、敵性語の英語をはじめ他の教科も相当学んでいる復員者や、病氣と称して学徒動員をサボリ、自宅で受験勉強に専念していた者ばかりだ。俺はどうだ？。中学入学当初、国文系の学科を少しかじった程度、でも大部分忘れかけている。数学はほんの入口だけ、英語がアイアムアボーイくらい。これじゃ、これから入試まで半年、いくらしゃかりきになってもダメだと諦めかけたが、「待てよ、学徒動員の工場で知った化学と東大生に教わった物理があるじゃないか。英語はあんなじゃ、文系は到底無理だが、理系なら、理科が一旦当たれば、何とかなるかも：」と急遽理系に志望を変更した。

英語力の不足をどうすれば良いか尋ね回したら、二年先輩の受験のベテラン曰く「英語は長文の英文和訳が出題される筈だ。そしたら先ず主語は何かを掴め、他に単語が少しはあるだろうから、それらを主語に合わせて訳文を作れ。訳文はできるだけ流麗な日

本文でなければならぬ」と。心得た！訳文なら任せとけ！と勇躍。敗戦から半年、死に物狂いの間に合せの勉強をしてある学校を受験した。国語は上出来、数学もまずまず、理科は山が当たって食塩の電気分解。動員の現場で、隣が電解工場だったからその仕組みは熟知、それに、東大生から学んだ原子物理学を織り混ぜて自信たっぷりの答案を書き上げたとき、これで合格間違いと思った。

最後は英語、ここでトチった。主語のW H E E L (歯車)をW H A L E (鯨)と早合点した。不審なところは多々あったが、流麗な訳文を作ることばかりに気を取られた。

答案を出して廊下に出、受験生たちの囁きに。歯車・・と聞いて愕然。もうだめだと観念すると同時に、腹を抱えて笑う採点者の顔が目につかんだ。

数日後の学科試験合格者発表ではナント！級友十数名の中で合格したのは私一人だった。理科様様のお陰と思ひ、どうせダメだと諦めながら身体検査を受けたがやはりダメだった。(完)

## 『活動日誌』・点描

選考委員会(7月14日) 木村会長が選考委員。■連合新潟高

■第83回新高教定期大会(7月4日) 木村会長出席。■囲碁大会に關する打ち合わせ(7月7日) 世話役の佐野達哉氏が上越より来局。新高退囲碁大会、県退教囲碁大会について確認。■事務局会議(7月8日) 第23回新高退囲碁大会、生涯学習委員会・研修旅行、第2回役員会などについて。■柏崎刈羽原発差止め訴訟第11回口頭弁論(7月9日) 今回から裁判長が変わり、更新弁論となり、映画「日本と原発」のダイジェスト版が上映された。弁護団長によると「原発事故の実態が映像によって裁判長に伝わったが、東電代理人はそっぽを向いてまるで反省がない」■柏崎刈羽原発ハイロ県民シンポ(7月12日) 柏崎市産業文化会館。事務局3人が参加。■戦争させない・9条壊すな！総がかり行動in新潟(7月13日) 主催は県平和運動センターと県憲法センター。会場は弁天公園、駅前を通り、万代橋手前までデモ行進。新高退の参加者20人。■希望奨学金

■第23回定期総会(7月21日) 年齢協第23回定期総会(7月21日) 教育をよくする新潟県民会議第4回定期総会(7月21日) 高校授業料無償化の復活を求めてとりくむなどの活動方針を決定。大森直樹さん(東京学芸大学)の道徳の教科化を考える「戦前回帰の現代的意味は何か」の講演は大変示唆に富むものでした。■2015年度第2回役員会(7月23日) 新任の阿部副会長を含めての新役員会。任務分担と事務局からの加入・退会防止についてなどの諸課題について意見交換。■被爆70周年「原水禁県民大会」(7月25日) ■戦争法案廃案・総がかり行動(7月27日) 新潟市陸上競技場サブグラウンドで開催。古町までのデモも盛大。会員の参加も27人と最高。■安保法制・緊急市民集会(8月1日) 県弁護士会の主催。新高教顧問弁護団も参加。■海渡雄一弁護士講演&映画「日本と原発」上映(8月2日) 原発事故さえなければ、多くの命が助けられたはず！映画と弁護士は訴え

る。■「現職・新高教本部の『戦争法案強行採決に対する抗議のとりくみ2』について」を発送(8月7日) ■新高教東・西新潟支部合同「憲法学習会」(8月21日) 近藤正道新高教顧問弁護士の「憲法の現状と主権者教育」と題しての講演。新高退参加者10人。佐渡支部/上越支部/柏崎支部などでも実施 ■8・30戦争法案廃案！安倍政権退陣！新潟大行動(8月30日) 西大畑公園で雨の中集会とデモ行進。会員の参加22人。■ピース・パレード(9月9日) 県弁護士会主催の第2弾。新潟駅南口広場。会員の参加25人。■9・16絶対強行採決を許さない！緊急県民大集会(9月16日) 参議院の山場。新潟駅南口広場。9日を上回る2000人超える結果。会員の参加26人。■怒りの緊急集会(9月18日) 新潟市役所前・噴水公園での朝8時からのスタンディング、引き続きの抗議の座り込み、正午から集会、榎谷小路までのデモ行進を貫徹。会員の参加8人。(事務局 石野公久)

## COLUMN

## ◆岡崎康行著「曇り硝子」

著者は、山形県出身で、新発田市に住む元高校教師。1963年に宮柊二が主宰するコスモス短歌会に入会し、歌人としても活動、現在は短歌誌「コスモス」選者の一人である。

地元の文芸誌などに掲載した、文学と旅を織り交ぜた随筆6編と「コスモス」などに発表した、柊二を中心とした短歌の評論4編を収める。

「宮柊二『若きかなしみ』を読む」と題した編もあり、柊二の歌や生涯、創作の背景となるエピソードなどをつづる。師である柊二への強い思いが伝わってくる一冊だ。1944円。

(新潟日報「郷土の本」から転載)

## ◆会員からのたより

いつもおたよりありがとうございます。120号の糸魚川の旅のようす、興味深く拝読いたしました。母もいま要介護となっております。在職中をなつかしんでいます。(娘代筆 高波文江 魚沼市青島)

# ※告知等

## ◆「戦争法の廃止を求める 統一署名」

目標・2千万筆  
 期間・2015年11月3日～  
 2016年4月25日  
 呼びかけ・戦争をさせない1000人委員会／解釈で憲法9条を壊すな！実行委員会／自由と民主主義のための学生緊急行動(SEALDs)／安保関連法に反対するママの会／NGO非戦ネット等多くの団体  
 ※同封チラシ、署名用紙で署名にご協力下さい。

## ◆通信「戦争をした国の記憶」

### (リレートーク)執筆者募集

敗戦80年の時には、おそらくもうこの様な特集は組めないと考えられます。自薦、他薦不問。執筆して頂ける方は事務局までご連絡を！

## ◆新高退名簿

発行・2016年6月  
 装丁・A4版／索引付き  
 配布・会員各人に各1冊  
 予告・個人情報保護の観点から、今回より申し出により、特段の事情がある方については、

「住所」と「電話番号」を記載しません。事情のある方は2016年1月末日までにお申し出下さい。

## ◆新会員加入の取り組み

引き続き、過去の未加入者に対する加入取り組みにと加入見込み者の情報提供を事務局まで！

## ◆会費納入のお願い

今年度会費未納の方は、今年度中に納入を！

## 編集☆後☆記

今号のトップ記事は生涯学習委員会企画の研修旅行、「靖国神社を自分の目で見る旅と班別研修で巡る東京」とした。「一人では来ることのなかった靖国を自分の目で見る」ことができよかった。内田弁護士から説明を受けながら見ることで靖国神社の本質が理解できた」との感想が寄せられ、この旅行を企画して本当によかったと感じた。特に企画のきっかけとなった内田弁護士からは、意気に感じて案内をして頂いたことに感謝。県内の研修旅行と比較して、県外それも都内の旅行は、移動(特に地下鉄での集団移動)、宿泊、

懇親会などに神経を使ったが、特にトラブルなく終われたのは、生涯学習委員の慎重な準備と参加者の協力のたまものであった。

地公3単産学習会講師の白井聡さんは、「日本人の主観に、日本は戦争に『敗けた』のではなく、『終わった』とし、敗戦を『なかったこと』にしていることが、今もなお日本政治や社会のありようを規定している。私はこれを、『永続敗戦』と呼んでいる」と話す。東電原発事故後の政府の対応は、全くこれと同じ構図。

福祉厚生委員会企画の学習会「認知症を学ぼう・私とまわりの人のために」の講師を引き受けて頂いた等々方(とどろき)さんは福祉施設の仕事をしながら、「家族の会」の仕事をしているが、患者家族に負担を強いることもできず財政は厳しいと話す。

「戦争法廃止に向けて」は、違憲の戦争法が成立したことを受けて、「安倍首相が、憲法をぶち壊した。こんなことが本当に起こるとは！正気とは思えない。このままでは何が起こるか分からない。私たちにできることは？」との思いから、会員に問いかけるもの。戦争法廃止まで退職者も本気で取

り組もう。

「新会員からのたより」は今年度2回目、3人から寄稿して頂いた。リレートークは飯塚良彦さんの後編。敗戦後、上級学校を目指した頃の悪戦苦闘がよく伝わってくる。その頃の様子を鮮明に記憶されていることに驚く。脱帽である。「COLUMN」には、通信「文芸」の句評をお願いしてきた岡崎康行さんの著書紹介(転載)と会員からの便りを掲載。「告知」は本部発のお知らせ、「COLUMN」はそれ以外の紹介と使い分ける予定。(内山)

## 会員訃報

謹んで哀悼の意を表します。

- 草間 順一さん (87歳) (上越支部) 9・17
- 小沼 修衛さん (93歳) (魚沼支部) 9・24
- 青木 仁さん (75歳) (新潟支部) 10・12
- 樋口 良平さん (85歳) (上越支部) 10・18
- 満田 誠二さん (83歳) (上越支部) 10・18
- 宮澤 達彌さん (83歳) (長岡支部) 10・26
- 田巻 隆作さん (82歳) (新潟支部) 11・8